
2027年3月期 第1四半期決算 補足説明資料

2026.8.7

東京ラヂエーター製造株式会社

コード番号7235 東証

2027年3月期 第1四半期 決算概要

■売上高 92億円、営業利益 7.0億円、当期純利益 5.7億円

- ・日本、アジアの売上拡大により、売上高は前年同期比6%増収
- ・国内事業の増益を中国事業の減益が相殺し、営業利益は前年同期比4%減益
- ・営業利益の減少に加え、営業外為替差損及び税金費用の増加により当期純利益は前年同期比14%減益
- ・前年の一過性利益の反動影響を除けば、営業利益は前年並み水準を確保
- ・第1四半期としては、売上高・利益とも概ね計画どおり進捗

(単位：百万円)	26年度 実績	25年度 実績	増減（対前年）	
			差異	率
売上高	9,238	8,714	+524	+6%
営業利益 (営業利益率)	703 (7.6%)	729 (8.4%)	△26 (△0.8%)	△4%
経常利益	718	793	△75	△9%
(親会社株主に帰属する) 当期純利益	566	661	△95	△14%

為替レート (平均レート)

通貨	26年度 1Q	25年度 1Q
CNY	22.6	20.9
IDR(100)	0.92	0.88
THB	4.9	4.5

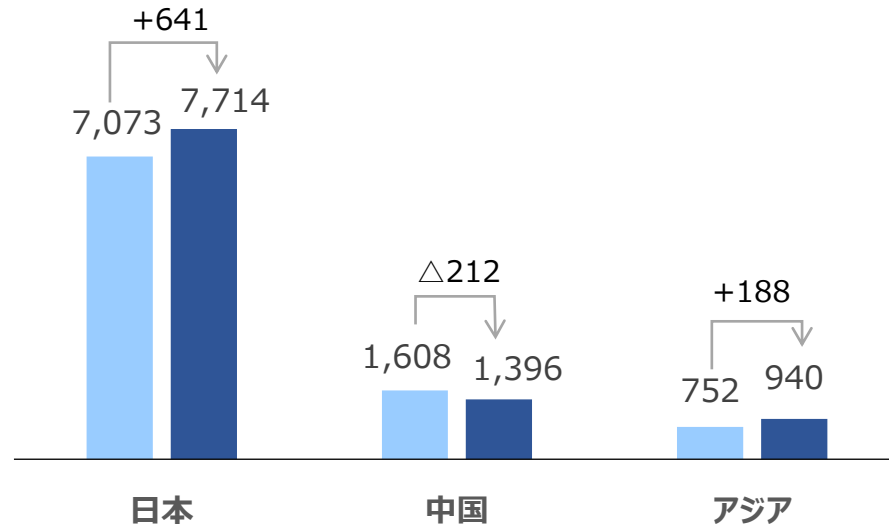
2027年3月期 第1四半期 セグメント別売上高・営業利益

- ・**日本** 自動車・建機向けともに堅調に推移し増収
AL市況上昇および中東影響によるコスト増があったものの、増収により吸収し増益
- ・**中国** 国内需要低迷・輸出減少により減収
コスト対策推進も、減収影響を吸収しきれず減益
- ・**アジア** タイ、インドネシアとともに主要顧客の生産増を背景に増収
前年一過性利益の反動減があったものの、増収効果により増益

*売上、営業利益とも連結調整は含まず

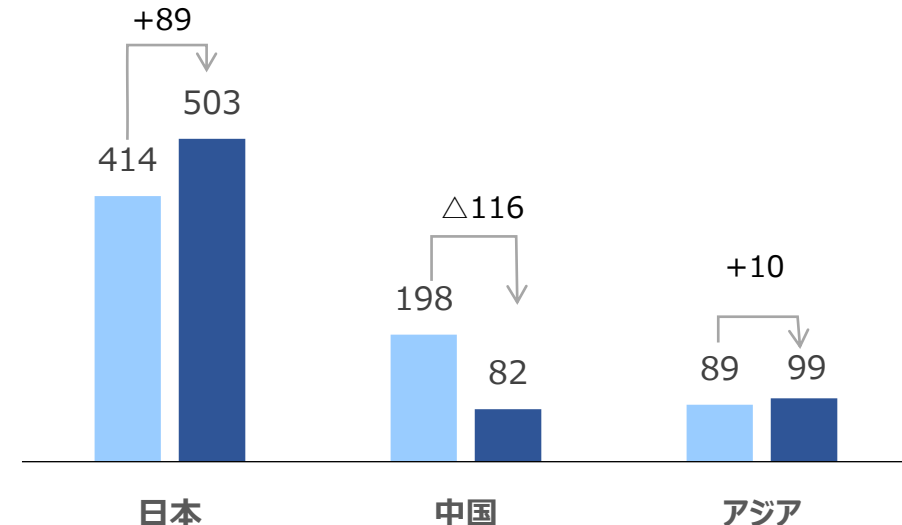
売上高 (前年同期比 +524百万円)

■ 25年度1Q ■ 26年度1Q (単位：百万円)



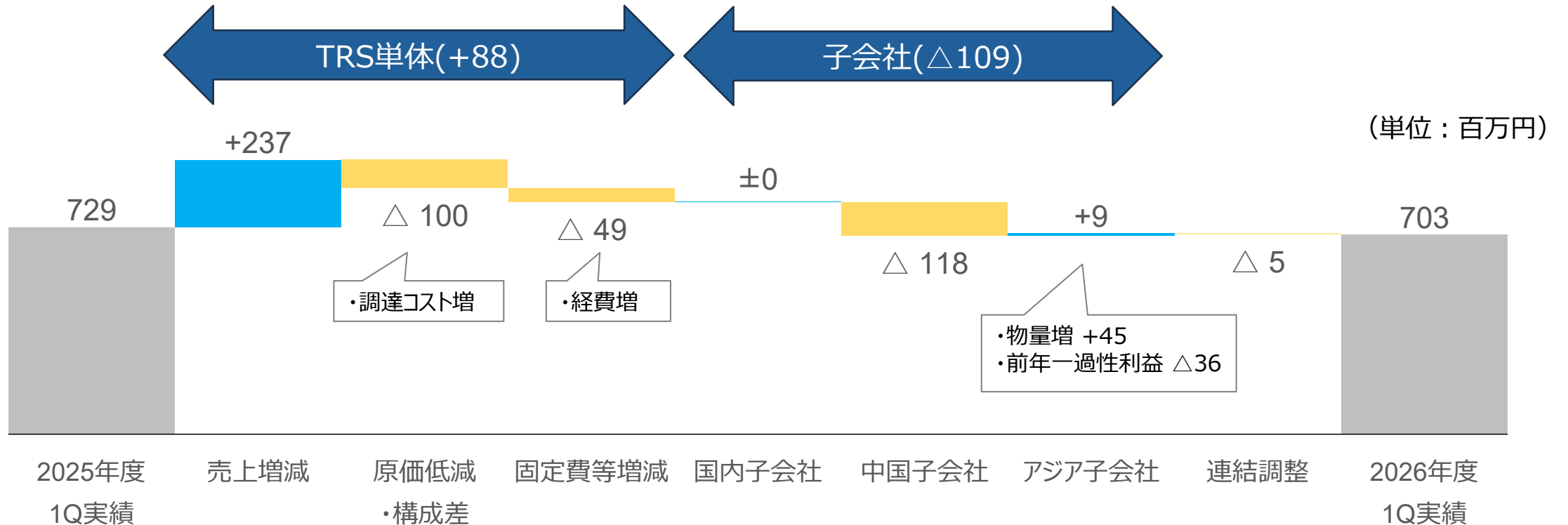
営業利益 (前年同期比 ▲26百万円)

■ 25年度1Q ■ 26年度1Q (単位：百万円)



2027年3月期 第1四半期 営業利益の変動要因

- ・物量増によりAL市況上昇等による調達コスト増を吸収し、TRS単体は88百万円の増益
- ・市況影響に対する価格適正化効果を2Q以降に見込む
- ・一方、中国の減益およびアジアの前年一過性利益の反動減等により、連結営業利益は前年比26百万円減の703百万円



2026年度 6月末 財務状況

(単位：百万円)	26年 6月末	26年 3月末	前年度末比
流動資産	21,475	21,293	+182
内 (現預金)	(9,348)	(8,544)	(+804)
(売上債権)	(8,316)	(8,978)	(△662)
(棚卸資産)	(3,109)	(3,203)	(△94)
固定資産	12,083	12,145	△62
資産の部	33,559	33,439	+120
流動負債	5,911	6,058	△147
固定負債	1,031	1,281	△250
負債の部	6,942	7,339	△397
自己資本	24,539	24,065	+474
その他 (非支配株主持分)	2,077	2,034	+43
純資産	26,616	26,099	+517
負債及び純資産合計	33,559	33,439	+120
自己資本比率(%)	73.1	72.0	+1.1

(補足) セグメント別売上高/営業利益 (四半期別推移)

(単位：百万円)		25年度					26年度
		1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q
日本	売上高	7,073	7,300	7,691	7,569	29,633	7,714
	営業利益	414	379	519	368	1,680	503
中国	売上高	1,608	1,460	1,322	1,570	5,960	1,396
	営業利益	198	118	50	93	459	82
アジア	売上高	752	686	717	770	2,925	940
	営業利益	89	37	70	△14	182	99
連結調整	売上高	△720	△796	△782	△838	△3,136	△812
	営業利益	26	△10	6	14	36	19
連結合計	売上高	8,714	8,650	8,947	9,071	35,382	9,238
	営業利益	729	524	644	461	2,358	703

(補足) 市場別外部売上高 (四半期別推移)

(単位：百万円)

市場	セグメント	25年度						26年度	
		1Q	2Q	3Q	4Q	年間		1Q	
		売上高	売上高	売上高	売上高	売上高	構成比	売上高	構成比
自動車	日本	5,896	5,803	6,265	6,110	24,073	68%	6,467	70%
	中国	1,006	740	649	864	3,259	9%	691	7%
	アジア	692	600	637	693	2,622	7%	854	9%
	計	7,594	7,143	7,551	7,667	29,954	85%	8,012	87%
建設機械	日本	1,005	1,371	1,295	1,296	4,967	14%	1,087	12%
	中国	54	51	21	34	161	0.5%	53	0.6%
	アジア	61	85	80	74	300	0.9%	85	0.9%
	計	1,120	1,507	1,396	1,404	5,428	15%	1,226	13%
合計		8,714	8,650	8,947	9,071	35,382	100%	9,238	100%

トピックス – 中期経営計画の推進 –

既存事業領域

・UDトラックス向けEGRクーラー採用拡大

- ・UDトラックス「Quon」に採用
- ・商用車向け既存製品の拡販
- ・排ガス規制対応ニーズへの対応

商用車向け新規車種採用拡大



既存事業の収益基盤強化



当社製 EGRクーラー



UDトラックス「Quon」

画像出典：UDトラックス株式会社HP
<https://www.udtrucks.com/japan/trucks/quon>

成長領域（電動化・CN）

・電動建機向けラジエーター新規受注

- ・日立建機電動油圧ショベルに採用
- ・電動化市場への対応強化
- ・CN関連製品売上拡大を推進

電動建機向け新規受注獲得



電動化・CN領域の事業拡大



日立建機 13トンクラス電動油圧ショベル「ZX135-7EB」

画像出典：日立建機株式会社HP
<https://www.hitachicm.com/eu/en/machinery/excavators/medium-excavators/product.zx135-7eb/>

既存事業強化と成長領域拡大により持続的成長を推進

本資料に掲載されている予想等に関わる情報は、本資料の作成時点において当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内での判断に基づくものであります。従いまして、その後の状況の変化により、将来の業績結果が記載内容と大きく異なる結果となる可能性がございます

本資料は投資家の皆様各自でのご判断と責任においてご利用いただくことを前提としており、当社はいかなる場合においてもその責任を負いませんことをご承知おきください